

VERA（ベラ）プロジェクト、観測開始から10周年を祝う

宮地竹史（水沢 VLBI 観測所）

水沢 VLBI 観測所では、VERA（ベラ）プロジェクトが、本格的な観測を開始して今年で10周年になることから、10月5日に本部のある奥州市の文化会館Zホールで記念式典を行いました。

式典には、文科省、機構、電波天文学分野やVERA観測局の地元、装置・運用関連企業の方々など約160名の参加がありました。

林台長が最新の成果を紹介しながら挨拶、川口所長が10年を振り返ってこの間の歩みを報告しました。続いて、この8月に国際天文学連合の会長に就任した海部前台長が10年で大きな成果を上げていることなどを紹介した祝辞を、韓国



会場案内の看板にも天の川が流れる。



川口所長による VERA10年の歩みの報告。

からは、天文学宇宙科学研究所のパク天文学宇宙事業本部長が日韓の協力をさらに進めようという期待を込めての祝辞がありました。

観山前台長、面高鹿児島大学特任教授からは、予算獲得、建設から観測までの努力を讃え、慰労し激励する挨拶を頂きました。VERA観測局のある4つの自治体を代表して、小沢奥州市長からは、国立天文台と地元との連携について感謝を込めた挨拶がありました。これらの祝辞や挨拶は、これからさらに成果を上げることが期待されるVERAプロジェクトに関わる全員への励みになりました。また、林台長からは、この間の観測・運用などへのご支援に対し、お世話になった方々へ感謝状が贈られました。

この後、舞台に大スクリーンを降ろし、VERAプロジェクトのサイエンスリーダーである本間希樹准教授が、この10年間で得られた成果を報告しました。特

に式典直前の10月2日に発表された銀河系（天の川銀河）の基本尺度を正確に測り、ダークマターが従来の推定より20%も多くなるという結果は、改めて参加者の注目を集めました（3ページの記事参照）。

ご多忙の中、東京から駆けつけられた文科省研究開発局の大竹審議官からは、「銀河系が重くなったのだから、メタボも20%増えても良くなった」と、さっそくこの成果を引き合いにしたユーモアたっぷりの祝辞を頂きました。

水沢 VLBI 観測所では、10周年に際して式典をおこなうとともに、奥州市や宇宙遊学館、NPO イーハート宇宙実践センターなどの協力を得て、VERA観測局の地元間の連携を進める「VERA天の川サミット」とVERA各局の地元特産品を展示販売する物産展、祝賀会、記念講演会、施設見学会、名勝地ツアーなど

も開催しました。大勢の方々さまにさまざまな形で10周年を迎えたVERAに改めて感心を寄せて頂けたのではないのでしょうか。



（左）研究成果もあけて10周年を迎えたことを喜ぶ海部 IAU 会長。（中）予算が通るまで本当に心配でした…面高俊宏鹿児島大学特任教授。（右）銀河系が20%も重いという結果はうれしいですね…文科省大竹審議官。